

会議（打合せ）報告書

教育長	部長	課長	所長	主任	班
会議(打合せ)の名称又は議題		平成26年度第1回白井市学校給食共同調理場運営委員会			
報告者職氏名		主査 金井 京美			
日時	平成27年2月5日(木) 14時00分～			場所	保健福祉センター2階研修室
出席者	菘倉 純	委員長	倉敷 まりえ	委員	
	八木 美子	委員	米山教育長		
	原山 伸悟	委員	伊藤所長		
	鈴木 康弘	委員	金井主査		
	押田 知之	委員	学校教育課 板橋主査		
	小泉 淳一	委員			
	松井 利一	委員	傍聴者 徳本悟		
	陣内 孝浩	委員	傍聴者 永瀬洋子		
<p>(会議の概要)</p> <p>○教育長のあいさつ</p> <p>本日は、寒さ厳しい折柄、学校給食共同調理場運営委員会にご出席いただきありがとうございます。</p> <p>学校給食共同調理場は、昭和54年に開所して既に35年が経過しており、施設の老朽化や耐震不足から、建て替えの方針を決定してきたところです。共同調理場は、建築基準法上工場であるため、「準工業地域」であること、近隣に住宅地がないこと、災害時には総合公園からも近く、共同調理場が拠点となり炊き出しなどの提供ができること等から、建て替えの候補地として、県道千葉ニュータウン北環状線、復インター下の準工業地域を予定地とし、PFI方式の整備手法により建設を考えております。</p> <p>また、現在の給食センターではアレルギー食の対応は行っておりませんが、新センターではアレルギー対応食を提供していきます。</p> <p>今日は、各分野の専門の方がお揃いですので委員の皆様方からの意見をいただき、よりよい給食センターの建設、子どもたちにとって安全でおいしい給食を提供したいと考えておりますので、ご審議、ご意見を頂きたいと思っております。</p>					

○議題1 平成26年度給食実施予定について 資料P1を説明

- ・事務局 平成26年度と同様に189回、1学期4/9～7/16で66回、2学期は9/2～12/21で73回、3学期は1/8～3/17で50回、合計189回であることを説明した。

<質疑意見なく議題1全員賛成で了承された。>

○議題2 学校給食費の徴収状況について 資料P2から説明

- ・事務局 現年度分、過年度分の徴収状況について、調定額、収入済額、未納人数、徴収率や未納の理由について説明した。また、学校給食費の徴収強化について、対策、実績について説明した。
- ・委員長 平成23年度は不納欠損がありますが、平成26年度はないのですか。
- ・事務局 転出先の住所が追えなくなった場合や海外へ出国した場合該当となります。また、以前監査委員からの文書により、本人が支払えないという意思表示がない限り、いつまでも不納欠損することはできなくなった。
- ・委員 前倒しで給食費をいただくことはできないのですか。入学説明会の際などPTA（同じ立場）から給食費はあくまで給食材料費であり、市の方で光熱水費、調理委託料や維持管理費等を支払っていること説明して欲しい。
- ・事務局 全国の給食を見ますと、関西方面では食券方式をとって、食券を購入して食べる場所があります。お金の用意がない児童生徒は給食が食べられないという状況が考えられますので、白井市では行わない議会で答弁しております。
- ・委員 平成26年度現年度分の未納人数が前年度と比べると多いのはなぜか。
- ・事務局 口座にうっかり入金を忘れた方が多く、408人のうち264人が該当。その方々が2、3月の口座振替の際、引き落としできるとお思いますので、408人－264人で144人。未納人数は例年並みになるかとお思います。
- ・委員 学校では、困窮している家庭については、準要保護制度があることを説明しているが、何らかの事情により準要保護になれない家庭があるので一概には難しいことが事実です。
- ・委員長 今後、教育委員会で滞納している家庭の納税状況等生活状況を把握し、なぜ未納になるのか原因を調べ滞納者の分析が必要ではないか。

<議題2全員賛成で了承された。>

○議題3 白井市学校給食共同調理場建替について 資料P4～P8を説明

・事務局 建替の概要について、これまでの検討結果を報告した。

現在の共同調理場は、35年経過し施設の老朽化や耐震不足から、市では移設・建替えの方針を協議してきた。平成26年度は、移設・建替の方針に沿って、用地の選定と建替手法について検討するため関係各課の職員による「白井市学校給食共同調理場建替事業調査・検討委員会」を設置し、候補地と整備手法について検討し、平成26年11月の教育委員会議で決定した。候補地については、現在契約内容について、UR都市整備機構と協議を進めている。

2. 用地については、URが所有している復インター下の準工業地域の土地です。選定理由は、①共同調理場は建築基準法上の用途が工場であるため、「準工業地域」であること ②共同調理場建設に必要なインフラが整備済みであり、速やかに事業着手できること ③近隣に住宅地がなく市民生活に与える影響が少ないこと ④給食の配送に便利なこと ⑤総合公園に近く、大規模災害時には共同調理場を炊出し拠点とするのに便利なことです。

契約方法は、事業用定期借地権設定契約、最長29年11月で確保したいと考えます。金額については、賃料総額約5億円、年額で約1,684万円、保証金として賃料の12ヵ月分が必要となります。なお、この価格はURの提示価格であり、価格については交渉中です。

用地の確保方法については、買い取りについても検討したところですが、財源の平準化が図れることなどから総合的に判断し定期借地での契約が一番妥当だと判断した。

3. 共同調理場の整備手法について説明した。先日視察した鎌ヶ谷市と同様のPFI方式（BTO方式）による施設整備及び運用です。

PFI方式とはどのような方式なのか説明。資料の事業スキームをご覧ください。PFI方式は、調理会社や建設会社、調理器具会社などが特別目的会社（SPC）を設立し、金融機関から直接資金調達を行い施設を建設した後一定期間、民間事業者が施設の運営や維持管理を一括で行うものです。

従来方式とPFI方式の大きな違いは、行う事業は同じでもだれが資金を調達するか、また業務を個別に発注するか、一括発注するかの違いとなります。また、BTO方式は民間事業者が施設を建設し公共施設等の管理者に所有権を移転し民間事業者が維持管理や運営を行う方式で、国からの交付金を受けられるため他市の事例を見てもBTO方式を選択するところが多い状況です。

PFI方式を検討するにあたって7,000食提供できる施設を想定し、財

政シュミレーションを行った結果、次の理由からPFI方式を選定した。

- ①財政負担の平準化が図れること。
- ②15年間の財政負担シュミレーションで約8,900万円の軽減が期待できること。
- ③給食共同調理場の運営は特別目的会社が運営するため、経営破たんによるリスクが回避されること。
- ④給食共同調理場運営の事務軽減が図れること。
- ⑤民間の経営能力及び技術的能力を活用することで、良質な公共サービスの提供が期待できること。

事業期間は、設計・建設期間を約2年間、運営期間を15年。想定業務は、現在の共同調理場でも既に調理や配送、回収、洗浄、配膳業務、経常的な維持管理業務を個別に民間へ委託していますが、PFIではこれらを一括して発注することになります。

開所予定日は平成30年9月1日とし、それに向け準備を進めていきたい。

4. 学校給食共同調理場建替等事業者選定委員会の設置について説明した。

PFI方式では、事業者は公募の方法により募集することになっていることから事業者を選定する委員会を設置する必要が生じる。

人数は7人で、衛生管理又は栄養学、建築、PFIの専門家などの他PTAなどの公共団体等の代表者、教育機関の職員、市民、市職員を想定している。

選定委員会の開催は、27年度、28年度それぞれ2回程度を予定している。

次に新センターの食器の選定について説明した。

食器の材質の選定は、食器洗浄機を決定するにあたり早めに食器の選定をしたい。市としては、樹脂食器に変える方向で検討しているが、皆さんの意見をお聞きしたい。現在、給食共同調理場で使用している磁器食器の欠点は

- ①は破損が多い。
- ②運転時にコンテナの中で食器が破損すると食器破片の異物の混入を防ぐためコンテナ丸ごと取り替えている。
- ③磁器食器は、低学年は重い、洗浄作業や運搬が重労働。

また、樹脂食器の環境ホルモンについては、検出されていない。

耐用年数は、おおむね磁器食器は5年、樹脂食器は8年が使用可能年数。

強化磁器食器を使用している共同調理場は、8ページの資料にあるとおり県内70か所のうち6か所である。

- ・ 委員長 運営委員皆さんの意見を伺いたい。
- ・ 委員 磁器食器は重いし割れやすいので、現場の人は樹脂食器の方がいいと思います。
- ・ 委員 投げたら割れる、落としたら割れるなど食育の観点から必要ではあるが、作業効率から樹脂食器がいいと思います。
- ・ 委員 8ページの資料で、浦安市が磁器食器を使用し平成24年度に開所されていますが、その理由は何故なのでしょう。
- ・ 事務局 磁器食器を使用していることを食育の点から「目玉」にしたいと、先日浦安市へ確認したところいっておりました。
- ・ 委員 磁器食器の耐用年数は5年、樹脂食器は8年と効率性は悪いが、磁器食器のほうが良い。
- ・ 委員 どちらともいえないが、質感が備わっていたらいいと思う。低学年の子は気を付けていても割ってしまうし、コンテナの中で破損するとコンテナごと交換しなければならないというリスクがあるのであれば、樹脂食器の方がいいのではないのでしょうか。
- ・ 委員 キズが付きにくいのは磁器食器だが、樹脂製の食器も環境ホルモンはクリアしているということなので、どちらとも決めかねる。
- ・ 委員 1年のうち約1,000食は家庭で食事し、給食は189食。食育は家庭が一番であると思いますので効率の良い樹脂食器がいいと思います。
7ページの食器材質使用状況に「その他」にステンレスがありますが、ステンレスはどうなのでしょう。また、「はし」を出してほしい。
- ・ 事務局 ステンレス食器については、資料を用意していませんので、後日報告させていただきます。「はし」については、環境を考え「マイはし」を持参する考えから現状では給食で用意しておりませんが、新センターでは今後検討していきたい。
- ・ 委員 小学生は樹脂製、中学生を磁器食器とそれぞれ分けることはできないのですか。樹脂は軽いけど傷つきやすく、磁器は重たく、どちらもメリット、デメリットがあるので何ともいえない。
- ・ 事務局 異なる設備を設置すると、故障した場合に対応できなくなるリスクがあるので難しいと思われます。
- ・ 委員長 食育を考えると磁器食器の方がいいが、効率性からは樹脂食器の方がいいのかもしれない。
皆様からのご意見が出そろったようです。今日は、新センターで使用する食器の選定について、皆様からのご意見を頂戴させていただきました。

結果、磁器食器 2 名、樹脂食器 4 名、どちらともいえない 2 名となった。

最後の議題（4）その他事務局から何かありますか。

・事務局

特になし

・委員長

以上をもちまして、白井市学校給食共同調理場運営委員会を終了する。

慎重なご審議ありがとうございます。

○閉 会